

ある日の育児日記から (34) 佐藤 和代



こうやって、自分の赤ちゃん時代を確かめられるのっていいですね。写真よりビデオより、リアルで劇的なシーンが見られるのです。これも上の子の特権かな、と思います。

というわけで、先日、おっぱいにアンパンマンの絵を描いたのです。有がおっぱいを求めてきたときはもうドキドキ。胸をあけると... わーおっぱいだー、とニコニコしていた有が、一瞬こわばった顔をしました。そして、数秒後、

さて、この一部始終を大変な興味をもって見たのが圭でした。「有くんきたよ、アンパンマン見せたら」「今度はいつ見せるの」「圭のときは何の絵だった?」と、一日中、おっぱいの話ばかり。胸の絵を見せるときは必ず圭もいっしょ。

有は一歳四か月になりました。今だにおっぱい大好き。さあそろそろ、断乳しなければ。圭が断乳したときは、おっぱいに女の子の顔を描きました。それを見たときの圭の表情...びっくりして、まじまじと見つめた、丸い目。あれを、もう一度見たい! あれは楽しい。

またニコニコ顔に。これで、おしまい。その後三日間、ときどきアンパンマンを確かめ、あとはもう、おっぱいを気にしなくなりました。

